

指定校番号	30001	学級活動	○ 児童会活動	クラブ活動	学校行事
-------	-------	------	---------	-------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	呉市立阿賀小学校	校長	山下 伸一	生徒指導主事	堀江 大志
-----	----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『阿賀小児童ボランティア隊（A J V）活動』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「思いやり・感謝」	2	「貢献」	1	「自らへの自信」	3

取組のねらい『キーワード 課題に気付く』

- ・ボランティア活動を通し、学校環境の美化等を主体的に行うことで、学校への愛着を高める。
 - ・ボランティア活動を通し、学級や学年を超えて児童が相互にふれ合う中で、新しい人間関係を築いたり、自他のよさに気付いたりする。また、学校生活を見直し、自分たちの周りにある課題を見つけ、自ら取り組み解決しようとする実践的態度を育てる。
- 以上のことを通し、全児童のボランティア活動に対する意識を高め、思いやりの心を育てる。

取組の具体的内容『キーワード 望ましい高学年児童の育成』

- ・阿賀小児童ボランティア隊（A J V）を作り、入隊児童を募集する。（高学年児童対象）
- ・ボランティアに参加した児童に、ボランティアカードを配付する。
- ・「阿賀小きれいにし隊」（始業前のボランティアそうじ）のボランティアに参加した児童のカードに、1回ごとに押印する。
- ・20回参加した児童は「正隊員認定式」を行い認定証、バッジを授与され、正隊員に認定される。
- ・100回参加した児童を経験や人物を考慮してリーダーに選任し、ボランティア活動の認定（カードへの押印）を任せる。また、リーダー会議を通して話し合ったことをもとに呼びかけ等を行う。
- ・隊員を高学年限定とすることで下学年からは「あこがれの高学年」、高学年にとってはリーダーとしての意欲や責任感を育てている。



認定式

取組の課題・創意工夫『キーワード リーダー性の発揮』

- ・A J V活動運営上の課題を解決するため、リーダー（100回以上参加の児童）会議を実施した。
- ・リーダー会議の中で「そうじの態度」「活動時間」「参加人数の減少」などが課題として出された。
- ・「そうじの態度」の課題については、望ましい態度について例示し、周知させた後、不適切なそうじ態度であった児童には、押印をしないことにした。
- ・「活動時間」の課題については、「参加はしたいが、事情があり活動時間に間に合わない児童」がいたので、活動終了時刻を延長することにした。



リーダー会議

- ・「参加人数の減少」の課題については、参加の多かった学級を表彰するなど、見える形で児童の主体性を認め、参加を促していった。
- ・リーダー（100回以上参加）の活動へのモチベーションを高めるため、押印の仕事だけでなく、参加人数の集計、そうじ場所の決定など教員が行っていた仕事内容を委譲し、達成感、充実感をもたせる工夫を行った。
- ・200回参加児童を表彰するためのゴールドバッジを作成した。



AJVのぼり



AJVバッジ

取組の成果（効果）『キーワード 自己有用感の獲得』

平成30年12月現在、正隊員（参加20回以上）の児童は230名。リーダー（参加100回以上）の児童は47名。ゴールドリーダー（参加200回以上）の児童は、18名。参加300回以上の児童は8名いる。これらの児童は全て学校長より認定証が渡され、リーダーについては、認定式を全校朝会で行った。認定式を通じ、教職員、児童から認められる体験をさせた。

本校ではアセス（学校環境適応感尺度）を年2回実施している。その中で教師から認められていると感じている指標「教師サポート」（偏差値）の学校平均は、平成27年7月の54.5に対し、直近の結果は、61.8と7ポイント以上の向上が見られた。学校で自分のよさが認められているという思いは、高い水準にあると考えられる。

今後の展開『キーワード 持続可能な取組』

AJV活動立ち上げから4年経ち、AJV活動を学校の伝統と捉える児童が多くなった。当初、参加人数が1人だけの日もあったが、現在では常に20名から30名の児童が集まり、活発に活動している。平成29年度には、阿賀小オアシス隊を新たに立ち上げ、全校児童の参加により、朝や帰りのあいさつ、授業時のあいさつが校内や地域で響くことを目指している。教職員も活動に参加することが多く、AJV活動がしっかりと学校に位置付いていると考えられる。今後、AJV活動を継続するとともにさらに発展させていくためには、児童主体の取組にしていくための工夫等、取組のさらなる工夫改善が必要である。

他教科との関わり『キーワード 豊かな体験の充実』

児童の内面に根ざした道徳性を育成するためには、学校の教育活動全体において豊かな体験を積み重ねることが必要である。AJV活動は、道徳科の授業で学んだことと有機的に関連し、道徳性を高めていく上で非常に有効な実践の場である。これらのことから、AJV活動は道徳教育の基盤の一つであると考えられる。